

『琵琶湖の情景』



歌川広重「近江八景 石山秋月」
大判錦絵揃物、安政4年(1857)

中山道の旅で出会うことができる湖は、諏訪湖と琵琶湖。山間の道を行く旅人たちにとって、峠から見下ろす湖の景は、なんともホッとさせてくれたことでしょう。2月9日からの中山道広重美術館は、歌川広重が描いた二つの「近江八景」シリーズを中心に、琵琶湖をテーマとする展覧会「琵琶湖の情景」を開催します。

今さら言うまでもなく、近江八景とは琵琶湖とその周辺を描いた歴史的な名所です。とはいえその出典は、これも言うまでもなく中国の画題であり詩題であった瀟湘八景しょうしやうにあります。近江八景は、この本歌の趣向を琵琶湖周辺の景に当てはめたもので、近衛信尹のぶただ(1565～1614)が詠んだ和歌によって、名所として制定されました。そして江戸時代中ごろになると、近江八景は出典である瀟湘八景を離れて名所として独り立ちし、定着していくに至ります。

本展覧会では、広重の天保黄金期といわれる天保5年(1834)ごろの制作とされる「近江八景之内」(横大判揃物)と、一方最晩年の縦構図によるシリーズ「近江八景」(安政4年:1857)を併せて展覧し、近江八景という画題を楽しみます。また水辺の「八景」という関連から、ご当地恵那を描いた名取春仙「恵那八勝」をも展示します。なお本展は平成16年度新収蔵作品「近江八景」のお披露目展となります。

2月9日(木)～3月5日(日)

毎週月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土日祝日を除く)休館

会期終了後、3月6日(月)～8日(水)まで展示替え休館します。

編集後記

インフルエンザの季節がやってきました。新型インフルエンザについて、さまざまな報道がされています。これまでに一般的に「スペインかぜ」(大正7年)、「アジアかぜ」(昭和32年)、「香港かぜ」(昭和43年)、「ソ連かぜ」(昭和52年)と言われていたものが、新型インフルエンザとして流行したそうです。インフルエンザにかからないためには1月15日号の表紙でお知らせしたように、一人一人が予防することが大切です。街中でもマスクをしている方をよく見るようになりました。まだまだ寒い日が続きますので、外へ出るときはマスク着用、帰ってきたら手洗い・うがい、そして栄養を十分とって、しっかりと睡眠をとるよう心掛けたいです。

次号は2月15日号
発行日は2月15日(木)です

広報えな No.29

2006年(平成18年)2月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 秘書広報課
岐阜県恵那市長島町正家1丁目1番地1

☎26-2111 / ☎25-6150

<http://www.city.ena.gifu.jp/>

✉info@city.ena.gifu.jp